



JSBMR Newsletter No. 22

日本骨代謝学会 / The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302 アカデミック・スクエア内

TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773 E-mail: jsbmr@ac-square.co.jp http://jsbmr.umin.jp

第 32 回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会 期: 2014年7月24日(木)~26日(土)

会 場: 大阪国際会議場

会 長: 島根大学医学部内科学講座 内科学第一

教授 杉本 利嗣

演題募集期間: 2014年1月16日(木)~3月18日(火)

大会ホームページ: <http://www2.convention.co.jp/32jsbmr/index.html>

会長挨拶: 第 32 回日本骨代謝学会学術集会を開催するにあたり

島根大学医学部内科学講座 内科学第一
杉本 利嗣

この度、平成 26 年 7 月 24 日(木)~26 日(土)に大阪国際会議場で開催されます第 32 回日本骨代謝学会学術集会の会長を務めさせて頂くこととなりました。開催にあたりひとことご挨拶申し上げます。

近年、骨代謝学は、細胞生物学、分子生物学、生化学、医療工学など幅広い分野の進歩に同調して、基礎研究分野のめざましい発展を続けています。また、臨床研究においてもその成果がいち早く取り入れられ、骨粗鬆症をはじめとする骨代謝異常症の病態解明や治療の応用に関する研究につながられています。今年度の日本骨代謝学会学術集会のテーマは「骨代謝学の新たな展開-基礎と臨床の融合-」としました。プログラムでは世界をリードする先生方による特別講演、海外招請講演に加え、他学会との合同シンポジウムも予定しています。本学術集会が、新たに参加した若手臨床医や研究者に骨代謝研究への関心を高めていただくきっかけとなるよう、鋭意準備を進めております。最後に、本学会が皆様にとって実り多いものとなりますよう多数の演題、ご参加のご協力をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

*新しい情報、学会内容はホームページ(<http://www2.convention.co.jp/32jsbmr/index.html>)に随時掲載、更新いたします。

一名名誉会員からのメッセージ
骨代謝研究と私

埼玉医科大学ゲノム医学研究センター 客員教授

須田 立雄

我が国の近代骨代謝研究は、米国と同様、内分泌学研究の一部として始まったように思う。私が骨代謝研究を始めた1960年当時、米国にも日本にも骨代謝研究の専門学会は存在せず、Endocrine Societyの年次総会と日本内分泌学会が主要な研究発表の場であった。米国骨代謝学会(ASBMR)が創設されたのは1979年、日本骨代謝学会(JSBMR)が創設されたのはその4年後の1983年のことである。JSBMR Newsletterの18号(2012年1月号)に藤田拓男先生(神戸大学名誉教授)が寄稿されているように、日本の近代骨代謝研究は昭和42年(1967年)6月、第1回日本骨代謝研究会として発足した。藤田先生の凄いところは先生の人脈の広さである。藤田先生の呼びかけに応じて、内科領域から吉川政巳先生(東大)、尾形悦郎先生(東大)、折茂 肇先生(東大)、大野丞二先生(順天堂大)、森井浩世先生(大阪市大)、森田陸司先生(京大)、整形外科領域から伊丹康人先生(東大)、津山直一先生(東大)、青池勇雄先生(東京医科歯科大学)、吉川靖三先生(筑波大学)、大畠 襄先生(慈恵医大)、井上哲郎先生(慈恵医大)、基礎研究の領域から細谷憲政先生(東大)、佐々木哲先生(東京医科歯科大学)など150人ほどの研究者が馳せ参じた。これらの先生方は文字通り日本の骨代謝研究の創生期を支える人たちとなった。私も佐々木先生のお供をして第1回研究会に参加した。藤田先生が1983年に企画・開催した国際カルシウム調節ホルモン会議(ICCRH 神戸会議)は、我が国の骨代謝研究が世界に飛躍するきっかけとなった。藤田拓男先生は文字通り我が国の骨代謝研究のパイオニアであり、牽引者であった。

私は1968年から1971年まで3年近くH.F. DeLuca先生の研究室(Wisconsin大学)に留学し、1971年から日本骨代謝研究会に復帰したが、米国留学中を除くと16年間の日本骨代謝研究会、1983年以降30年以上に亘るJSBMRの学術集会には殆ど欠かさず出席した。私がいつも感心するのは日本骨代謝学会がASBMRの良い点をお手本として育ててきたことである。その一例は、発表後の討論が極めて活発なこと、討論希望者がマイクの前に整然と一列に並んで順番を待っていることであった。当時、他の学会にはこのような習慣はなかったので、大変新鮮に感じたことを記憶している。これも藤田先生が提唱されたことであった。

1971年2月、私は活性型ビタミンDの構造決定を済ませて帰国した。その成果を第5回日本骨代謝研究会(1971年)で初めて発表した。当時、東大第4内科の助手を勤めていた尾形悦郎先生が会場の一番前の席に陣取り、私の発表を熱心に聞いて下さったことを懐かしく思い出す。尾形先生はサイエンスには格別厳しい方で、その後、私にとって貴重な共同研究者となり、良き理解者となった。私が永年にわたりビタミンDと骨代謝研究を続けることができたのは尾形先生のお蔭が大きかったように思う。また、尾形先生がJohn Potts先生(MGH)、Jack Martin先生(St. Vincent研究所)と共に立ち上げたInternational Bone Forum (IBF 会議、1992-1999)では、通算8回開催された国際会議で40名以上の著名な欧米研究者を招くと共に、我が国の多くの若い骨代謝研究者を育てることに多大の貢献をした。2009年、尾形先生は77歳でお亡くなりになったが、先生の早すぎるご逝去は日本の、そして世界の骨代謝研究にとって大きな損失であった。

日本のビタミンD研究の進展はJSBMRを抜きにしては語れない。私は活性型ビタミンDの合成誘導体Alfacalcidolの創薬を目指して、1974年中外製薬との共同研究を開始した。中外製薬でAlfacalcidol(商品名:アルファロール)開発のProject leaderとなったのが西井易穂さん(中外製薬 元取締役)であった。私は中外製薬との共同研究を通じて、骨代謝研究領域の多くの内科医、整形外科医、産婦人科医、小児科医などの臨床の先生方と知り合うことができた。これが私にとっては生涯の大きな財産となったのは言うまでもない。また、日本骨代謝学会の演題数もAlfacalcidolの開発研究と共に右方上がりに増えていった。Alfacalcidolの開発と前後して我が国のオリジナルな創薬研究として進めら

れたのが東洋醸造(後の旭化成)のウナギカルシトニン(商品名:エルカトニン)の開発で、その総括医師を勤めたのが折茂 肇先生(東大)であった。現在、我が国では多くの骨粗鬆症治療薬が市販されているが、アルファロールとエルカトニンはわが国発の最初の骨粗鬆症治療薬となった。これらの創薬研究を通じて、西井易穂さんと折茂 肇先生ともその後長くお付き合いを頂けることになった。

日本の次世代の研究者による骨代謝研究の成果は誠に目覚ましいものがある。昔は骨代謝研究が Nature, Cell, Science などの Big Journal に掲載されるのは稀なことであったが、現在では毎号のように Big Journal に日本人研究者の名前を見つけることができる。骨芽細胞分化因子 Cbfa1/Runx2 を発見した小守壽文先生(現 長崎大)、破骨細胞分化因子 ODF/RANKL を発見・分子クローニングした高橋直之先生(現 松本歯科大学)と保田尚孝さん(現オリエント酵母)、破骨細胞分化の重要な転写因子(NFATc1)を発見し、骨免疫学(Osteoimmunology)という新しい研究領域を創設した高柳 広先生(現 東大)、ビタミンD受容体(VDR)欠損マウスを世界に先駆けて作成し、骨代謝と核内受容体の関係を解明した加藤茂明先生(現 相馬中央病院)、リン代謝を調節するFGF23を発見し、その作用機序を解明した福本誠二先生(東大)と山下武美さん(キリン)、世界に先駆けて骨細胞欠損マウスを作製した池田恭治先生(国立長寿研)など、数えると枚挙に暇がない。これらの研究を通じて、我が国の骨代謝研究と日本骨代謝学会(JSBMR)の活動は世界で高く評価され、日本は世界の骨代謝研究の一つのメッカとなった。終わりに、今日私があるのは日本骨代謝研究会と日本骨代謝学会(JSBMR)のお蔭である。我が国の骨代謝領域の皆様方の半世紀に亘るご厚情とご指導に心から感謝の念を捧げる。



1. 尾形悦郎先生、折茂 肇先生と
(第1回骨代謝学会にて、1983年)



2. 藤田拓男先生、尾形悦郎先生と
(第6回骨代謝学会にて、1988年)



3. John Potts 先生、尾形悦郎先生、西井易穂さん、
池田恭治先生と(第1回IBM会議にて、1992年)



4. 森田陸司ご夫妻、尾形悦郎先生と
(IBMS/JSBMRにて、2003年)

2013 年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2013 年 4 月～2013 年 10 月末)

■2013 年度 第 2 回理事会 (新理事会) 議事録■

日 時: 2013 年 5 月 28 日 (火) 7 時 30 分～8 時 30 分

会 場: 神戸国際会議場 4 階 会議室 403

米田前理事長より、2012 年度第 4 回理事会で承認された新理事・監事 5 名の紹介があった。

< 協議事項 >

1. 議長の選出

本理事会の議長について米田前理事長を選出した。

2. 理事長・副理事長の選出

新理事長の選出について協議した結果、理事長に田中良哉理事の推薦があり、全会一致で承認した。なお、新副理事長については次回理事会にて推薦・選出することとなった。

3. 理事担当役について (米田前理事長)

理事担当役について協議した結果、理事担当役ならびに各種委員会委員長について下記の体制で進める旨、全会一致で承認した。なお、あり方委員会ならびに広報委員会委員長については次回委員会協議の上、次回理事会にて推薦・選出することとした。

< 理事担当役 >

理事長 田中 良哉

副理事長 (未定)

理 事 (庶務) 井樋 栄二

(庶務) 野田 政樹

(財務) 福本 誠二

(財務) 吉川 秀樹

(学会誌) 大藪 恵一

(広報) 高柳 広

(渉外) 伊東 昌子

(渉外) 遠藤 直人

(学術) 小守 壽文

(学術) 高橋 直之

監 事 松本 俊夫

米田 俊之

< 各種委員会委員長 >

あり方委員会 (未定)

国際渉外委員会 福本 誠二

JBMM 編集委員会 清野 佳紀

臨床プログラム推進委員会 杉本 利嗣

骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会 遠藤 直人

広報委員会 (未定)

顎骨壊死検討委員会 米田 俊之

ステロイド性骨粗鬆症管理と治療ガイドライン

改訂委員会 名和田 新

椎体骨折評価委員会 (代表委員) 宗圓 聰、萩野 浩

会員数増加検討委員会 田中 良哉

■2013 年度 第 3 回理事会議事録■

日 時: 2013 年 7 月 31 日 (水) 13 時 00 分～15 時 00 分

会 場: 東京国際フォーラム 5 階 G504

議 事: 本理事会の議事録署名人は、高柳理事、田中 (栄) 理事が担当することとした。

< 報告事項 >

1. 庶務報告 (野田理事)

野田理事より、2013 年 6 月 30 日時点での会員数、会費納入状況の報告があり、了承した。また、8 年以上の年会費長期滞納会員ならびに 8 年未満の住所不明会員 (合計 166 名) の提示があり、退会処理を進める旨、了承した。

2. 会計中間報告 (福本理事)

福本理事より、2013 年 6 月 30 日現在の会計中間報告があり、了承した。

3. 各種委員会報告

1) あり方委員会 (加藤委員長)

加藤委員長より、第 32 回学術集会において開催される若手シンポジウムならびに産学連携シンポジウムの演者報告があり、了承した。また、主に以下の提案があった。

・あり方委員会および会員数増加検討委員会の活動目的や委員構成が重複しているため、今後は委員会を合併し、新委員長として田中 栄委員を推薦したい。

・若手の教育、育成ならびに会員数増加を図るため、教育委員会を新たに設立してはどうか。

協議した結果、あり方委員会および会員数増加検討委員会を合併することとし、新委員長として田中 栄委員が就任することとした。なお、委員会の再編成に伴い、委員も全面的に交替することとした。

また、教育委員会の設立については、委員会の名称を「教育・復興支援委員会」とし、設立を進めることとした。なお、新委員長には加藤あり方委員長が就任することとした。

2) 国際渉外委員会 (福本委員長)

福本委員長より、主に以下の報告があり、了承した。

- IBMS Society Member の会員特典を受けるために必要な個人情報登録アンケートの回答依頼を会員に配信しているが、現状の回答数が731名と依然少ないため、未回答の会員へ引き続き督促を行う予定である。
- 2013年度 Travel Award の寄付金として旭化成ファーマより新たに50万円の寄付があった。
- ASBMR President の Keith Hruska、ECTS President の Bente Langdahl より、骨関連の8団体で International Federation of Musculoskeletal Research Societies (IFMRS) を立ち上げたい旨の依頼があった。本学会としても筋肉分野の研究者を取り込むため、積極的に関わっていききたい。なお、今後の具体的な方向性は今年のASBMR会期中に開催される会合で協議される予定である。

3) JBMM 編集委員会(田中理事長)

田中理事長より、主に以下の報告と提案があり、了承した。

- 2012年度 IF 値は2.219となり、2011年の2.268より若干の減少となったが、全体の引用回数は増加傾向にある。
- シュプリンガー社より、オープンアクセスになった論文の著作権を、著者が料金を支払うことで著者の所有とする旨の連絡が届いたため、オープンアクセスのサービスを停止する方向で進めている。
- ワイリージャパン社より、出版社変更の申し出があったが、現状ではその予定はない旨、回答した。
- 現行の投稿規程では企業から報酬として受け取る際の申告基準等が設けられていないため、何らかの基準を設けてはどうか。

協議した結果、現行の投稿規程を見直すことを目的に、新たに利益相反委員会を設けることとし、委員長には遠藤理事が就任することとした。

4) 臨床プログラム推進委員会(杉本委員長)

杉本委員長より、主に以下の報告があり、了承した。

- 今年度を目途にビタミンD欠乏症不足症診断ガイドラインの作成を進めており、来年開催される厚生労働省の班研究、骨代謝学会、内分泌学会にてパブリック・コメントを収集する予定である。
- くる病・骨軟化症の診断マニュアルはパブリック・コメントの収集が完了し、今年度を目途にガイドラインを作成する予定である。
- 来年の骨代謝学会において内分泌学会とのジョイントシンポジウムを開催する予定である。

協議した結果、ビタミンD欠乏症不足症診断ガイドラインのパブリック・コメントを収集する際には骨粗鬆症学会にも呼びかけを行うこととした。

5) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会 : 報告事項なし

6) 広報委員会(伊東理事)

伊東理事より、第31回学術集會会期中に開催された委員会報告ならびにホームページ改訂スケジュール(案)の提示があり、了承した。また、高柳理事より、ホームページの改訂に向けて現在、制作業者の選定を行っている旨、合わせて報告があり、了承した。

7) 顎骨壊死検討委員会(杉本委員)

杉本委員より、主に以下の報告があり、了承した。

- BP 製剤及びデノスマブの製造販売会社12社より、全国の歯科ならびに口腔外科などの医療機関への頒布を目的とした顎骨壊死・顎骨骨髓炎防止のためのポスターならびに添え状の内容確認依頼が学会宛てに届き、委員会で確認の上、各委員から出された修正意見を提出する予定である。

8) ステロイド性骨粗鬆症管理と治療のガイドライン改訂委員会(田中理事長)

田中理事長より、6月30日に開催された委員会について、主に以下の報告があり、了承した。

- 改訂ガイドライン作成までの経緯、経過、改訂事項の統計学的根拠などを説明した。
- カットオフ値ならびに推奨薬剤の根拠などを説明した。また、理事会で協議した結果、下記の内容でガイドライン作成を進めることとした。
- スコアリングシステムを用いた改訂ガイドラインを高く評価する。
- カットオフ値を3とし、3点以上であれば治療介入、3点未満であれば経過観察とする。
- フローチャートは極力シンプルにする。
- 治療介入の際の第一選択薬を推奨度 A とし、欄外に推奨度 B、C の薬剤を掲載する。
- スコアリングに記載されている情報について、危険因子評価後の「あり」「なし」項目を削除する。「3ヶ月」の「ヶ」は「カ」に訂正する。また、骨密度は70%「未満」から「以下」に訂正する。
- 今後の動きとして、学会 HP 上でパブリック・コメントを収集後、最終版を作成し、改訂ガイドラインを発行する。また、公表の際にはプレスリリースとともに、和文版と合わせて英文版を作成する。

9) 椎体骨折評価委員会 : 報告事項なし

10) 会員数増加検討委員会(田中委員長)

田中委員長より、第32回学術集會において開催される筋/腱/靭帯シンポジウムの演者報告があり、了承した。

4. IBMS-JSBMR 2013 大会報告(野田会長)

野田会長より、IBMS-JSBMR 2013 大会報告として主に以下の報告があった。

- ・有料参加者数は 801 名(招待等含め 900 名)、IBMS/JSBMR 会員の参加者数は 419 名であった。
- ・参加国数は 30 カ国であった。
- ・一般演題数は口演 45 演題、ポスター257 演題、Late Breaking は口演 6 演題、ポスター37 演題、Japanese Day は口演 15 演題、ポスター53 演題であった。
- ・シンポジウムについてのアンケート評価は概ね Excellent という評価であった。

5. 第 32 回日本骨代謝学会学術集会準備状況について(杉本会長)

第 32 回プログラム委員会にて報告

6. 後援・共催依頼について(田中理事長)

田中理事長より、日本歯科医師会主催の第 19 回口腔保健シンポジウムへの後援名義貸与、大正富山医薬品主催の相双地区骨関節疾患学術講演会への共催名義貸与を行った旨、報告があった。

7. 学会誌掲載論文の転載依頼について(田中理事長)

田中理事長より、前回事業会以降に依頼のあった、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン(2011 年版)の転載依頼 9 件、原発性骨粗鬆症の診断基準(2012 年度改訂版)の転載依頼 3 件、BRONJ ポジションペーパー(改訂追補 2012 年版)の転載依頼 2 件、ステロイドガイドライン(2004 年版)の転載依頼 1 件、骨粗鬆症患者 QOL 評価質問表(2000 年版)の転載依頼 1 件、JBMM 掲載論文の転載依頼 1 件について報告があり、了承した。

8. 原発性骨粗鬆症の診断基準(2012 年度改訂版)／椎体骨折評価基準(2012 年度改訂版)の著作権料について(田中理事長)

田中理事長より、原発性骨粗鬆症の診断基準(2012 年度改訂版)の著作権料として 3,324,000 円、椎体骨折評価基準(2012 年度改訂版)の著作権料として 704,000 円がライフサイエンス出版よりそれぞれ入金される予定である旨、報告があった。

9. 「骨粗鬆症用薬の臨床評価方法に関するガイドライン」改訂に向けた「専門協議会」の設置について(田中理事長)

医薬品医療機器総合機構より、骨粗鬆症用薬の臨床評価方法に関するガイドライン改訂に向けた専門協議会設置に伴い、学会から委員を推薦してほしい旨の依頼があり、本学会からは伊東理事、杉本元理事、宗圓元理事、萩野元理事が委員として参

加する予定である旨、田中理事長より報告があった。

< 審議事項 >

1. 新評議員の推薦について(田中理事長)

各評議員より下記 2 名の新評議員推薦があり、全会一致で承認した。

- ・松尾 光一 新評議員
(推薦者:高柳 広 理事、竹田 秀 評議員)
- ・宮本 健史 新評議員
(推薦者:田中良哉 理事長、田中 栄 理事)

2. 副理事長、各種委員会委員長の選出について(田中理事長)

副理事長、各種委員会委員長について協議した結果、下記の体制で進める旨、全会一致で承認した。

< 理事担当役 >

副理事長 田中 栄

< 各種委員会委員長 >

あり方委員長 田中 栄
広報委員長 中島 友紀
復興支援委員長 加藤 茂明
利益相反委員長 遠藤 直人

3. 平成 26 年度科研費・国際情報発信強化に向けての取組方針について(田中理事長)

田中理事長より、平成 26 年度の科研費採択に向けた取組方針について、海外に向けた学会の広報活動の強化や関連国際学会との連携、教育セミナーの開催等を盛り込んでいきたい旨の提案があり、了承した。また、今後も各委員会委員長と連携を取りながら、取組方針について引き続き検討を行っていききたい旨、合わせて報告があった。

4. 内科系コンソーシアムの設置について(田中理事長)

田中理事長より、骨代謝学・骨代謝疾患の魅力と関連性を啓発することを目的に、内科学会のサブスペシャリティ13の学会にて骨代謝関連の講演を開催するため、本学会の内科系医師を中心とした内科系コンソーシアムを設立してはどうかとの提案があり、了承した。なお、協議した結果、日本消化器病学会の担当を杉本利嗣先生(島根大学)から山口 徹先生(島根大学)へ変更することとした。また、日本医学放射線学会は伊東昌子先生(長崎大学)が、日本動脈硬化学会ならびに日本糖尿病合併症学会は杉本利嗣先生(島根大学)、岡田洋右先生(産業医大)がそれぞれ担当することとした。

5. 学会キャッチコピーの募集について(田中理事長)

田中理事長より、学会の認知度をより高めるため、学会の魅力、目的、行動等を一言で表現できるキャッチコピーを公募してはどうかとの提案があり、了承した。

■2013年度第4回理事会議事録■

日時: 2013年10月25日(金) 12時00分~14時00分

会場: 千里ライフサイエンスセンター 6階 601号室

議事: 本理事会の議事録署名人は、井樋理事、伊東理事が担当することとした。

<報告事項>

1. 庶務報告(井樋理事)

井樋理事より、2013年9月30日時点での会員数、会費納入状況の報告があり、了承した。

2. 会計中間報告(吉川理事)

吉川理事より、2013年9月30日現在の会計中間報告があり、了承した。

3. 各種委員会報告

1) あり方委員会(田中(栄)委員長)

田中委員長より以下の報告があり、了承した。

- ・委員会再編に伴い、会員数を増やす目的のもと、各種の分野から14名の委員を招集する予定である。また、企業委員を若干名入れることとし、今後、委員公募の案内を事務局から各賛助企業へ通知する予定である。
- ・第32回学術集会上において開催される産学連携シンポジウムは「外科的手術における最先端の骨移植」をテーマとし、自家培養軟骨・人工骨移植・人工骨開発について講演する予定である。

2) 国際渉外委員会(田中理事長)

田中理事長より以下の報告があり、了承した。

- ・ASBMR 会期中に開催された International Federation of Musculoskeletal Research Societies (IFMRS) の会合に本学会から田中理事長、米田監事が参加し、今後の方向性について協議した。今後の活動内容として、サイエンティフィックプログラムや臨床ガイドラインの作成、データベースの構築等を進めていく予定である。本学会としても新たな分野の研究者を取り込むため、積極的に関わっていきたい。

3) JBMM 編集委員会(清野委員長)

清野委員長より JBMM の投稿状況、発行状況等について主に以下の報告があり、了承した。

- ・採択率は10月20日現在で2013年度投稿論文:21.6%、

2012年度:32.3%、2011年度:27.4%、2010年30.9%である。

- ・新規投稿の論文種類は10月20日現在で Original Article 254編、Case Report 24編、Short Communication 20編、Review Article 16編、他となっている。Case Report は投稿数が増えているが掲載枠に限りがあるため、今後、採択数を制限したい。
- ・10月20日時点の国別投稿状況は国内37%、海外63%であり、今年の投稿数は昨年の投稿数を上回る予定である。
- ・投稿から判定までの平均日数は採択論文が106日、不採択が34日となっており、年々短縮されてきている。
- ・2012年度IF値は2.219となり、2011年の2.268より若干の減少であるが、全体の引用回数は増加している。

4) 臨床プログラム推進委員会(杉本委員長)

杉本委員長より以下の報告があり、了承した。

- ・第32回学術集会上で開催予定の日本内分泌学会合同シンポジウム「ビタミンD不足・欠乏と代謝性骨疾患」において、現在策定中である「ビタミンD欠乏症不足症診断ガイドライン」のパブリック・コメントを収集する予定である。

5) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会(遠藤委員長)

遠藤委員長より、現在熊本委員が QOL 評価表簡易版の素案を作成中である旨、報告があった。

6) 広報委員会(中島委員長)

中島委員長より、今後の広報活動について以下の報告ならびに提案があり、了承した。

a) 学会キャッチコピーについて

- ・学会員を対象に学会キャッチコピーを公募したところ、132件の応募があった。
- ・理事会、広報委員会にて選考を行った結果、下記5件が選出され、今後の広報活動で活用していくこととした。

【金賞】

『骨の謎に迫る 骨の病気に挑む』

(中島友紀・東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子情報伝達学)

【銀賞】

『骨の不思議を科学する』

(山下京子・愛知学院大学歯学部生化学講座)

【銅賞】

『ヒトを支える、命を支える、骨代謝研究で拓く豊かな未来』

(東 由明・帝人ファーマ株式会社創薬部門)

【入選】

『骨と生きるー骨代謝学会ー』

(田中瑞栄・河北総合病院整形外科)

『夢がある。サイエンスの興奮がある。骨代謝学会』

(西田暁史・長崎大学放射線科) (敬称略)

b) 学会ホームページの全面改訂について

・本学会の活動や魅力を伝え、学会員の新規獲得を目指すことを目的にホームページを全面改訂する予定である。改訂案として 3 つのコンセプト(「ターゲット(学生、臨床医等)を目的の情報へ導くエリア」「骨代謝学への理解を深めるエリア」「お知らせ・告知エリア」)に分けてページを作成し、下記の企画を順次進めていく予定である。

- ー骨研究のトップランナー
- ーHot paper、1st Author、Meeting report
- ー骨研究の礎を築いた偉人(先人)達
- ー骨辞書・Bone Wiki(専門用語集)
- ー骨代謝 Q&A(一般の方向け)
- ー研究室紹介 Bone guys

・ホームページ制作会社は現在選定中であり、見積り額等を勘案の上、決定したい。

c) 新規賛助会員獲得ならびに広告バナーの契約について

・新たな賛助会員獲得のため、人工関節メーカー、雑誌社、実験器具メーカー等、約 100 社の新規企業へ趣意書の発送を予定している。先生方との関係が深く、賛助会員として入会を見込めそうな企業があれば、事務局まで連絡をお願いしたい。

・賛助会員としての特典を広げ新規会員を獲得するため、現行ホームページでは賛助会員の企業名のみが記載されているが、今後は各企業のホームページへリンクを貼ってはどうか。また、現行の広告バナー掲載料を年間 10 万円から 5 万円に値下げしてはどうか。

なお、広報委員会からの提案に対して、理事会より主に下記の意見が出され、了承した。

・作成を検討している骨の用語集については、日本内分泌学会で発行している用語集と統一性が良かった方が良いのではないか。また、ホームページへ掲載した後、書籍として出版してはどうか。

・今回決定したキャッチコピーのロゴを作成してはどうか。

7) 顎骨壊死検討委員会(米田委員長)

米田委員長より以下の報告があり、了承した。

・BP 製剤およびデノスマブの製造販売会社 12 社より学会宛てに、全国の歯科ならびに口腔外科などの医療機関への頒布を目的とした顎骨壊死・顎骨骨髓炎防止のためのポスターならびに添え状の内容確認依頼が届き、本委員会にて内容の確認を行った。その後修正が加えられ、今回提示した内容が最終案である。

8) ステロイド性骨粗鬆症管理と治療のガイドライン改訂委員会(田中理事長)

田中理事長より、改訂版ガイドライン・最終案の提示があり、了承した。また、理事会で協議した結果、下記の流れでガイドラインの制作を進めることとした。

- ・筆頭著者を鈴木康夫副委員長とし、英文版を JBMM へ投稿する。
- ・今後のスケジュールとして、10 月末までに学会 HP 内の会員専用ページ上でパブリック・コメントの公募開始、11 月末までに最終版の作成・医薬品医療機器総合機構(PMDA)への報告、12 月末までにプレスリリース、和文版作成、JBMM への投稿ならびに解説を含めた書籍発行の準備を進めるとした。なお、PMDA への連絡は宗圓委員、杉本先生を中心に進めることとする。

9) 椎体骨折評価委員会 : 報告事項なし

10) 会員数増加検討委員会(田中委員長)

田中委員長より、内科系コンソシアム企画の演者(案)の提示があった。協議した結果、消化器学会の担当を杉本利嗣先生(島根大学)から山口 徹先生(島根大学)に変更、内分泌学会の担当に杉本利嗣先生(島根大学)を追加、腎臓学会の担当に稲葉雅章先生(大阪市立大学)を追加することとした。なお、本企画への寄付金を募る各企業への趣意書発送については、事務局が各演者候補の講演諾否を取った上で進めることとした。

11) 教育・復興支援委員会(加藤委員長)

加藤委員長より、教育担当委員長として西村理行先生、復興担当委員長として加藤茂明先生が就任し、委員については今後検討していく予定である旨、報告があった。

12) 利益相反委員会(遠藤委員長)

遠藤委員長より、学会役員などの COI 自己申告について提案があった。協議した結果、役員および委員会委員は日本内科学会の COI 自己申告書、筆頭演者は日本整形外科学会の COI 自己申告書を参考に学会が作成した申告書を使用し、提出を義務付けることとした。なお、本取り決めは平成 27 年度より施行することとした。

4. 第 32 回日本骨代謝学会学術集会準備状況について(杉本会長)

第 32 回プログラム委員会にて報告

5. 後援依頼について(田中理事長)

田中理事長より、北陸骨を守る会主催の第 4 回北陸大学骨を守る会市民フォーラムへの後援名義貸与を行った旨、報告があった。

6. 学会誌掲載論文の転載依頼について(田中理事長)

田中理事長より前回理事会以降に依頼のあった、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン(2011 年版)の転載依頼 9 件、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン(2006 年版)の転載依頼 2 件、原発性骨粗鬆症の診断基準(2012 年度改訂版)の転載依頼 4 件、椎体骨折評価基準(2012 年度改訂版)の転載依頼 2 件、ステロイドガイドライン(2004 年版)の転載依頼 2 件、BRONJ ポジションペーパー(改訂追補 2012 年版)の転載依頼 1 件について報告があり、了承した。

7. 「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン(2011 年版)」小改訂について(田中理事長)

田中理事長より、2014 年度を目途に小改訂を加えた冊子の発行を予定していることに伴い、骨粗鬆症財団ならびに日本骨粗鬆症学会が主導で第 1 回目の小改訂委員会(12 月 8 日)を開催する予定である旨、報告があった。

8. 「骨粗鬆症用薬の臨床評価方法に関するガイドライン」改訂に向けた専門協議会委員の変更について(田中理事長)

前回理事会にて承認された、学会から PMDA へ推薦する専門協議会委員について、萩野先生が参加を辞退したため、新たな委員として井植理事を推薦する予定である旨、報告があった。

9. IOF Regionals 4th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting(Hong Kong)での学会展示ブース出展について(田中理事長)

田中理事長より、2013 年 12 月 12 日(金)～15 日(日)に香港にて開催される IOF Regionals 4th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting において JBMM プロモーションのための学会展示ブースを出展する予定である旨、報告があった。

<審議事項>

1. 2014 年度各賞選考スケジュール(案)について(田中理事長)

田中理事長より、2014 年度各賞の選考スケジュール(案)の提示があり、承認した。

2. IBMS Herbert Fleisch Workshop への Travel Grant 支給について(田中理事長)

IBMS の Roger Bouillon 先生より福本国際渉外委員長へ、来年 3 月にベルギーで開催される IBMS Herbert Fleisch Workshop に対する Travel Grant を本学会から拠出してほしいとの依頼があった旨、田中理事長より報告があった。協議した結果、若手研究者の参加を奨励するため本学会で Travel Award を設け、1 名あたり 15 万円の Travel Grant を若干名に授与することとした。なお、具体的な選考方法・選考基準については国際渉外委員会

にて検討を進めることとした。

3. HRpQCT 導入に向けた学会からの要望書提出依頼について(松本監事)

松本監事より、HR(高解像度)-pQCT の導入ならびに保険診療認可に向けた学会からの要望書提出の依頼があり、了承した。

4. 日本骨粗鬆症学会からの JBMM 誌共同編集参画依頼について(清野委員長)

日本骨粗鬆症学会より、JBMM 誌を同学会のオフィシャルジャーナルとして認可してほしいとの申し入れがあった旨、清野委員長より報告があった。協議した結果、本学会で定めた下記条件の受け入れが可能であれば認可を前向きに検討することとし、骨粗鬆症学会へその旨を回答することとした。

- 1) 現状の編集方針は変更せず、JBMM の編集委員長の決定、編集委員会の運営は本学会に帰属する。
- 2) JBMM の著作権は出版社であるシュプリンガー社と本学会が折半で有する契約となっており、変更は不可能である(同じくオフィシャルジャーナルとしている日本骨形態計測学会は著作権を有さない)。
- 3) JBMM に投稿する場合、Osteoporosis Japan 誌への和文論文の二重投稿は認められない。ライフサイエンス出版社はこれを容認しなくてはならない。
- 4) 本学会と骨粗鬆症学会が共同でガイドライン等を発表する場合には、機関誌である JBMM にまず投稿しなくてはならない。
- 5) 上記 1)～4)を骨粗鬆症学会が承諾した場合、同学会会員であり、かつ本学会の会員ではない方に対しては、骨粗鬆症学会が JBMM を購入し、配布する。

5. その他(田中理事長)

田中理事長より、本学会が法人化することの是非について検討したい旨の提案があり、次回の理事会において協議することとした。

■各種委員会■

<2013 年度第 1 回あり方委員会>

日 時: 2013 年 4 月 6 日(土) 13 時 00 分～14 時 30 分
場 所: ニッセイ新大阪ビル 18 階 会議室 D

1. 骨代謝(サマーor ウィンター)スクールについて

骨代謝スクールについて協議した結果、主に以下の意見があった。

- ・準備委員会の委員が基礎系に偏っているため、臨床系や企業からも委員を追加してはどうか。また、スーパーバイザーを入れてはどうか。

- ・若手、中堅の先生は臨床治験の方法や研究計画書の書き方についてあまり詳しくないため、研究の方法について扱うプログラムは魅力的である。
- ・臨床系や企業の参加者を取りこむことが出来るプログラム作りが重要である。
- ・日本骨粗鬆症学会が今年から開催するサマースクールとの差別化をどう図っていくか。骨代謝学会は臨床や疫学だけに焦点を当てる必要はなく様々な要素を取り入れることが出来るので、そこで違いを出せるのではないか。
- ・若手を対象にした骨代謝関連の勉強会が多数存在するため、骨代謝スクールの目的や理念を明確にし、他の研究会との差別化を図るべきである。
- ・学会からどの程度開催経費の支援が可能か、理事会で確認する必要がある。

今回出された意見をふまえ、下記事項を盛り込んで準備委員会を立ち上げる事を理事会に提案する。

- ・準備臨時委員会は理事会が委員を指名しスクール開催後解散する。サマースクールは主催者が中心となり、独自に年會を組織／運営する。
- ・多面的な視野で運営を進めていくため、臨床系や企業からの準備委員を追加する。
- ・若手を対象にした骨代謝関連の勉強会が多数あるため、骨代謝スクールの目的や理念を明確にし、他の研究会との差別化を図る。また、本年日本骨粗鬆学会がサマースクールを開催するため、本年度は準備期間とし、来年度以降の確立された理念の下、他の研究会との差別化を明確にした開催を目指し、準備委員会が議論し、開催案を理事会に提出する。
- ・理事会承認後、サマースクール大会長がスクール開催／運営を行う。

2. 学会の利益相反 (Conflict of Interest) について

前回委員会にて提案があった学会の利益相反について理事会にて協議した結果、今年の第 31 回骨代謝学会より演題発表時の COI スライド表示を義務付けることが決定した旨、加藤委員長より報告があった。

3. 学会ホームページの改訂について

学会ホームページの改訂について協議した結果、主に以下の意見を広報委員会へ申し入れることとした。

- ・広報委員会の中にコンテンツを企画、検討する専門委員会を設けてはどうか。
- ・新委員として企業関係者や若手の先生を追加してはどうか。

4. 今後の検討課題について

今後の検討課題について協議した結果、主に以下の意見があった。

(1) テクニカルスクールの開催について

- ・基礎的なテクニカルセミナーが多いため、薬の使用方法等を扱った臨床系のテクニカルセミナーを学会前日に開催してはどうか。
- ・テクニカルセミナー開催のためのワーキンググループを学会内に設立してはどうか。
- ・企業や大学の若手を対象にした統計講習会を開催してはどうか。
- ・参加者が集まりやすい学会の前日に開催してはどうか。

(2) 臨床系セッションの開催について

- ・企業関係者の参加を促すため、ガイドラインに関するセッションを平日や学会前日に開催してはどうか。
- ・開業医の場合は平日のプログラムへの参加は厳しいのではないかと。
- ・臨床データを中心にしたセッションが少ないため、臨床ベースのセッションを作ってはどうか。

(3) その他

- ・学会プログラムを早くから選定し、広告することが大事である。具体的には、製薬企業を通して企業主催セミナーのチラシを開業医の先生に配布する、また非会員に学会のチラシや医師向けサイト「m3.com」を利用して学会案内をするなど。
- ・地方にいる会員の利便性も考慮し、学会の開催場所を東京／大阪に固定せず、それ以外の地方都市で学会を開催してはどうか。
- ・今後、学会の国際化についても議論していきたい。

今回出された意見をふまえ、下記の検討事項を次回理事会に申し入れることとした。

- ・骨代謝スクールについては、準備委員会の委員が基礎系に偏っているため、臨床系や企業からの委員を追加してはどうか。
- ・学会ホームページの改訂について、広報委員会の中にコンテンツを企画、検討する専門委員会を設けてはどうか。また、新委員として企業関係者や若手の先生を追加してはどうか。
- ・テクニカルセミナーの開催について、従来の基礎的なテクニカルセミナーではなく、薬の使用方法等を扱った臨床系のテクニカルセミナーを開催してはどうか。また、セミナー開催のためのワーキンググループを学会内に設立してはどうか。
- ・地方にいる会員の利便性も考慮し、学会の開催場所を東京／大阪に固定せず、それ以外の地方都市で学会を開催してはどうか。

5. その他

次回のあり方委員会は、IBMS-JSBMR 2013 会期中の5月30日(木)10時00分～11時30分にて会員数増加検討委員会との合同委員会を開催することとした。また、次々回のあり方委員会は、今年の秋冬頃に開催の予定とした。

<2013年度第1回あり方/会員数増加検討合同委員会>

日時: 2013年5月30日(木) 10時00分～11時30分

場所: 神戸国際会議場 4階 会議室 403

<報告事項>

1. 会員数の現状について

田中委員長より、2013年5月27日時点の会員数および2012年度入退会者の専門分野、所属機関別の割合について、資料に基づき報告があった。

2. 会員数増加検討委員会・新委員の追加について

田中委員長より、学会の取扱領域の拡大を図るため、下記2名が新委員として就任した旨、報告があった。

— 浅原 弘嗣 委員(東京医科歯科大学医歯学総合研究科システム発生・再生医学)

— 中野 貴由 委員(大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻)

3. 関連学会への単位取得申請状況について

田中委員長より、関連学会への単位取得申請状況について、新規で5学会(日本リハビリテーション学会、日本歯科放射線学会、日本口腔インプラント学会、日本口腔外科学会、日本腎臓学会)より認定が下り、11学会は認定不可、残りの10学会は返答待ちである旨、報告があった。

<検討事項>

1. 第32回学術集会の企画について

次回プログラムを企画するにあたり、主に以下の意見が出された。

1) 若手シンポジウム(基礎系、内科系、外科系)

- ・40代より若い世代の研究者を育てることに重点を置いた内容にしたい。
- ・学会参加者の多くが骨粗鬆症治療薬や骨代謝骨粗鬆症といったプログラムに参加していたことから、骨粗鬆症に関心がある人が多いことが窺える。その点を考慮すると、3つのセッションを別々の時間帯に行っている現行の枠組みを廃止し、例えば骨粗鬆症というテーマに絞った2時間半程度の横断的なセッションを行い、各分野からの最新アプローチを若手主導で発表する形式に変えてはどうか。

2) 産学連携シンポジウム

- ・過去2回開催したシンポジウムの流れを踏襲した内容にしたい。
- ・広島大学が企業と共同研究している自家培養軟骨を扱う案が出ている。

協議した結果、第32回学術集会では例年通り4つの枠組み(基

礎系、内科系、外科系、産学連携)で企画を進めることとし、次回委員会で各企画のテーマや演者等を決定することとした。また、若手シンポジウムの横断セッションについては第33回以降の学術集会で開催有無を検討していくこととした。

3) 「筋/腱/靭帯研究」シンポジウム

協議した結果、本シンポジウムは浅原委員主導のもとで進めていくこととした。

4) 臨床系セッション、テクニカルセミナー

- ・学術集会への開業医の参加を促すため、一年間の動向を報告(最新の論文や薬の紹介等)する学会全体の Overview や Annual Review、治療指針の State of the Art やガイドラインに関するセッション等を開催してはどうか。また、参加単位を付けることで参加者数も増えるのではないかな。
- ・スポンサーセミナーの内容は当該企業の薬に偏りがちだが、学会主導のプログラムであれば公平な観点で薬の議論が出来て良い。
- ・各領域の Annual Review を基礎、臨床の方面からそれぞれ行ってみてはどうか。
- ・直近一年間に出された治療の Evidence Review を行ってはどうか。

協議した結果、臨床系は骨粗鬆症治療の Evidence Review、基礎系はホットピックスを扱う各1時間のプログラムの開催を合同委員会からプログラム委員会へ提案することとした。なお、プログラムの詳細な内容や演者等については他のプログラムとの兼ね合いを考慮し、プログラム委員会で協議してもらうこととした。

2. 骨代謝スクールについて

骨代謝スクールについて協議した結果、主に以下の意見があった。

- ・骨代謝に関する資料をまとめた冊子を配布する等、会員増加に繋がるきっかけになると良い。
- ・企業研究者にも興味を持ってもらえるよう、治療や薬の Evidence Review をプログラムに取り入れてはどうか。
- ・産婦人科学会が主催しているサマーセミナーは人気があり、定員は学生100名・初期研修医200名だが毎回ほぼ満員である。内容は婦人科の基礎的な説明から機器の使い方、学生中心のディスカッション等で、婦人科へのリクルートメントを目的としている。骨代謝スクールにおいても、会員向け以外に非会員向けのプログラムを設けてはどうか。

協議した結果、プログラムとして治療や薬の Evidence Review を取り入れることを合同委員会から準備委員会へ提案することとした。また、会員増加のための非会員向け企画の立ち上げについては骨代謝スクールと切り離し、引き続き検討していくこととした。

3. その他

その他の検討課題について協議した結果、主に以下の意見が出された。

1) 教育委員会の設立について

- ・若手会員の教育・育成ならびに会員数増加を図るため、あり方

／会員数増加検討委員会の中から教育委員会を設立してはどうか。

・学術集会のプログラム委員会委員を固定とする常設委員会としてはどうか。

2) 学会 HP の改訂について

広報担当理事に就任した高柳理事を中心に、HP 改訂を含めた学会の広報活動を抜本的に見直してもらいたい。

3) 学会キャッチコピーの公募について

骨代謝学会の認知度は決して高くなく、学会の活動や成果が見えにくいという声があったため、学会員を対象に、学会の魅力・目的・行動等を一言で表現したキャッチコピーを公募してはどうか。

4) 今後のあり方／会員数増加検討委員会の運営について

両委員会の活動目的や委員構成が重複しているため、今後は委員会を合併してはどうか。また、一本化後の新委員長として田中 栄委員に就任いただいてはどうか。

協議した結果、下記の検討事項を次回理事会へ申し入れることとした。

・若手会員の教育・育成、会員数増加を図るためにあり方／会員数増加検討委員会の委員を中心に教育委員会を設立してはどうか。

・骨代謝学会の認知度は決して高くなく、学会の活動や成果が見えにくいという声があったため、学会員を対象に、学会の魅力・目的・行動等を一言で表現したキャッチコピーを公募してはどうか。

・両委員会の活動目的や委員構成が重複しているため、今後は委員会を合併してはどうか。また、新委員長として田中 栄委員を推薦したい。

<2013 年度第 2 回あり方／会員数増加検討合同委員会>

日 時：2013 年 7 月 7 日(日) 13 時 30 分～15 時 30 分

場 所：ホテルクリオコート博多 宴会場 パロック D

< 検討事項 >

1. 第 32 回学術集会の企画について

1) 若手シンポジウム(基礎系、内科系、外科系)

各分野の担当委員より、演者(案)ならびに演題名(案)の報告があり、全会一致で承認した。なお、現在未定となっている基礎系の演者、演題名については、後日、事務局へ連絡することとした。

2) 産学連携シンポジウム

担当委員より、産学連携が比較的進んでいる骨移植や培養軟骨の分野に焦点を当て、企画内容の検討を行っている旨、報告があった。また、これまで 3 年間の企画を振り返り、再来年以降の企画の進め方について議論した結果、主に以下の意見が出された。

・バイオカンファレンスや Science Cafe のような形であれば、産学がより相互的に参加できるのではないかと。

・アカデミア側から製薬企業向けにブリーフプレゼンを行う名刺交換の場を提供してはどうか。

・企業側が興味のあるトピックスの所に行って研究者の話聞く、ポスター発表のようなスタイルにしてはどうか。

3) 「筋／腱／靭帯研究」シンポジウム

浅原委員より、演者(案)の報告があり、全会一致で承認した。また、田中(栄)委員より、会員取り込みを視野に入れ、筋肉分野のワーキンググループを設立してはどうかとの提案があり、引き続き検討していくこととした。

2. 内科系コンソーシアムの設置について

田中委員長より、内科学会のサブスペシャリティ学会に骨代謝学・骨代謝疾患の魅力と関連性を啓発していくため、本学会の内科系医師を中心とした内科系コンソーシアムを設立してはどうかとの提案があり、承認された。また、委員より主に以下の意見が出された。

・このような取り組みを通して、他学会との連携を強めていくことが大切だ。

・アメリカ糖尿病学会にも今年から訪問セッションが出来た。骨に興味を持っている学会もあると思うので、需要はあるかもしれない。

・企業ルールにより、学会が演者の指定をすることが難しいため、学会から企業への提案という形で演者や講演タイトルを提案する形が良いのではないかと。

3. 学会キャッチコピーの募集について

田中委員長より、学会の認知度が低く、活動内容や成果が見えづらいことから、学会の魅力、目的、行動等を一言で表現できるキャッチコピーを公募してはどうかとの提案があり、承認された。また、委員より主に以下の意見が出された。

・骨だけではなく、多領域を扱っていることを表現できるようなロゴマークを新たに公募してはどうか。

・学会入会のメリットはたくさんあるが(IBMS への入会、JBMM/BoneKEy の無料購読等)、上手く伝わっていない印象を受ける。ホームページや冊子を通してもっと広報すべきである。

・学会として目指しているビジョン・目標が見えにくい。今後の方向性について明確なアピール・宣言をすることで理解が深まるのではないかと。

・学会の歴史や業績をまとめた冊子を作成してはどうか。または、ホームページに連載してはどうか。

・学会の関連用語(「骨粗鬆症」等)をキーワード検索した際にホームページが検索上位に上がるように Google や Yahoo に依頼して対策を講じてはどうか。

・企業が医師向けに開催している Web 講演会の画面に、学会の広報スライドを配信してはどうか。

4. その他

今後の検討課題について協議した結果、主に以下の意見があった。

・若手会員の教育・育成ならびに会員数増加を図るため、教育委員会を設立してはどうか。

・学術集会プログラム委員会を常設委員会とし、プログラムの充

実を図ってはどうか。

今回出された意見をふまえ、下記の検討事項を次回理事会に申し入れることとした。

- ・内科学会のサブスペシャリティ学会に骨代謝学・骨代謝疾患の魅力と関連性を啓発していくため、本学会の内科系医師を中心とした内科系コンソーシアムを設立してはどうか。
- ・学会の魅力、目的、行動等を一言で表現できるキャッチコピーを公募してはどうか。
- ・学会の歴史や業績をまとめた冊子を作成してはどうか。または、ホームページに連載してはどうか。
- ・学会の関連用語(「骨粗鬆症」等)をキーワード検索した際にホームページが検索上位に上がるように Google や Yahoo に依頼して対策を講じてはどうか。
- ・企業が医師向けに開催している Web 講演会の画面に、学会の広報スライドを配信してはどうか。

<第5回ステロイド性骨粗鬆症管理と治療ガイドライン改訂委員会>

日時: 2013年6月30日(日) 13時00分~15時00分

場所: 東京国際フォーラム ガラス棟 6階 G605

1. 第2回ステロイド性骨粗鬆症ガイドライン改訂委員会作業部会の報告と提案

1) ガイドラインのスコア化に向けた国内コホートの解析結果
藤原委員より、国内コホートの解析結果について、主に以下の報告があった。

- ・解析方法として、鈴木委員・田中(郁)委員・中山委員の3つのコホートデータを統合してスコアを作成し、鈴木委員・田中(良)委員の産業医大+GOJAS 一次予防コホートで検証を行った。
- ・検証の結果、最も効率的に判別できるカットオフ値は8であったが、スクリーニングの観点から、感度を上げてカットオフ値を5にしてはどうかとの意見が作業部会から挙がり、カットオフ値5ならびに8で感度・特異度等の解析を行った。

2) 作業部会からの提案

鈴木康夫先生(東海大学医学部血液・腫瘍・リウマチ内科)

鈴木副委員長より、国内コホートの解析結果を受けて、主に以下の提案があった。

- ・カットオフ値8という結果が出たが、一次予防を含めた治療対象を広げること、また、IOFとECTSから出されているガイドライン立案のフレームワークで紹介されている治療体系に合わせることを考慮し、カットオフ値5でスコア化を進めていきたい。
- ・スコアを整数化する際、感度を優先して小数点第1位を四捨五入ではなく、切り上げてはどうか。

協議した結果、カットオフ値5でスコア化を進めることとした。また、数値を切り上げた場合の解析結果への影響について藤原委員に検討してもらうこととし、問題がなければ切り上げることとした。

2. ステロイド性骨粗鬆症ガイドライン改訂版の策定

鈴木副委員長より、ガイドライン改訂版の策定について、主に以下の提案があった。

- ・フローチャート作成にあたり、現行ガイドラインの対象である「経口ステロイドを3ヶ月以上使用中あるいは使用予定」の患者に対しては、一般的指導を行うと同時に、危険因子(既存骨折、年齢、ステロイド投与量、骨密度)の評価を行う。また、スコアが5以上であれば薬物療法を行い、スコアが4以下であれば定期的な骨密度測定をもって経過観察とする。
- ・ただし、単独でスコアが5以上になる危険因子(既存脆弱性骨折が発生している、年齢が65歳以上、ステロイド投与量が7.5mm以上、骨密度が70%未満等)は別枠で表記した方が良いか。

協議した結果、ガイドライン改訂版の内容について、下記の通り進めることとした。

- ・骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011年版にならひ、骨密度は70%未満から以下に改訂する。
- ・ビスフォスフォネート製剤の使用はスコア対象から除外する。
- ・高リスク、中リスクといったリスクレベルの表記は避け、スコアの表記のみとする。
- ・基本的な推奨薬剤はアレンドロネート、リセドロネートとし、これらの薬剤を使用できない場合の代替薬として活性型ビタミンD3、アルファカルシドール、カルシトニン、テリパラチド、イバンドロネートを推奨する。また、田中(良)委員が医薬品医療機器総合機構に推奨薬剤の確認を行う。
- ・経過観察として挙げられている定期的な骨密度測定の期間を6ヶ月~1年毎から6ヶ月毎に改訂する。
- ・顎骨壊死は日本の学会のパブリック・コメントを参照し、非定型骨折についてはASBMR(アメリカ骨代謝学会)のSecond Report(2013, Oct)を参照する。
- ・今後の動きとして、鈴木副委員長が素案を作成し、本委員会で確認後、理事会に提出し承認をいただき、学会HP上でパブリック・コメントを収集、最終版を作成し、改訂ガイドラインを発行する。また、和文版と合わせて英文版を作成する。

3. 小児ステロイド骨粗鬆症ガイドラインの策定

田中(弘)委員より、小児ステロイド骨粗鬆症ガイドラインの策定について、主に以下の提案ならびに報告があった。

- ・エビデンスが乏しくガイドラインの策定は難いため、下記の内容を踏まえ、リコメンデーションの形式で発表したい。
- ・現状では、骨密度増加に有用なビスフォスフォネート製剤の明確なエビデンスが存在しない。
- ・骨形成不全症でのアレンドロネート、リセドロネート内服は骨密度を増加させたが、2年間の治療で骨折の有意差は付かなかった。
- ・骨折のしきい値が骨密度のZスコア-1.7~-1.8あたりと考えられるため、-1.5SD以下を骨折危険域と設定したい。また、短時間で骨折を起こす患者は骨密度が急激に減少している場合が多いため、半年の間に-0.8SDを上回る骨密度の減少は骨折のリスクとなることを内容に盛り込みたい。
- ・子供の場合、早ければ3ヶ月以内に骨折を起こす恐れがあることから、6ヶ月に1度の骨密度測定を必須としたい。
- ・経口ビスフォスフォネート製剤による骨折予防のエビデンスが

存在しないため、成人における結果から類推し、効果について言及したい。

協議した結果、小児ガイドライン改訂版の内容について、下記の通り進めることとした。

- ・リコメンデーションはガイドラインより上のランクの位置付けとなるため、ポジションペーパーとして発行する。
- ・今後の動きとして、田中委員が素案を作成し、本委員会で確認後、理事会に提出し承認をいただき、学会 HP 上でパブリック・コメントを収集、最終版を作成し、小児ガイドラインを発行する。また、和文版と合わせて英文版を作成する。

今後の学会予定

●第 32 回日本骨代謝学会学術集会

会 期：2014 年 7 月 24 日(木)～26 日(土)

会 場：大阪国際会議場

会 長：杉本 利嗣(島根大学医学部内科学講座内科学第一)

テーマ：骨代謝学の新たな展開－基礎と臨床の融合－

演題募集期間：2014 年 1 月 16 日(木)～3 月 18 日(火)

ホームページ：<http://www2.convention.co.jp/32jsbmr>

問い合わせ先：運営事務局(32jsbmr@convention.co.jp)

●第 33 回日本骨代謝学会学術集会

会 期：2015 年 7 月 23 日(木)～25 日(土)

会 場：京王プラザホテル(新宿)

会 長：高橋 直之(松本歯科大学総合歯科医学研究所機能解析学講座)

関連学会の大会開催予定

●第 8 回 Bone Research Seminar

会 期：2014 年 2 月 14 日(金)～15 日(土)

会 場：東京コンファレンスセンター 品川

主 催：中外製薬株式会社

ホームページ：<http://brs.umin.jp>

問い合わせ先：運営事務局(brs@ac-square.co.jp)

●Joint Entity of IOF and ISCD: Osteoporosis: Essentials of Densitometry, Diagnosis and Management Course

会 期：2014 年 3 月 3 日(月)～4 日(火)

会 場：The Academia Singapore General Hospital (Singapore)

ホームページ：<http://www.endometab.com>

問い合わせ先：運営事務局(leonardsng@themeetinglab.com)

●第 13 回日本再生医療学会総会

会 期：2014 年 3 月 4 日(火)～6 日(木)

会 場：国立京都国際会館

会 長：田畑 泰彦(京都大学再生医科学研究所生体材料学分野)

テーマ：再生医療への科学技術インテグレーション
－再生研究と再生治療－

ホームページ：<http://www2.convention.co.jp/13jsrm>

問い合わせ先：運営事務局(13jsrm@convention.co.jp)

●2014 Herbert Fleisch Workshop

会 期：2014 年 3 月 16 日(日)～18 日(火)

会 場：Brugge (Belgium)

ホームページ：<http://www.ibmsonline.org/p/cm/ld/fid=202>

問い合わせ先：info@ibmsonline.org

●ECTS 2014

会 期：2014 年 5 月 17 日(土)～20 日(火)

会 場：Prague (Czech Republic)

ホームページ：<http://www.ectscongress.org/2014>

問い合わせ先：運営事務局(conferences@bioscientifica.com)

●第 87 回日本整形外科学会学術総会

会 期：2014 年 5 月 22 日(木)～25 日(日)

会 場：神戸ポートピアホテル、神戸国際会議場、
神戸国際展示場

会 長：黒坂 昌弘(神戸大学大学院医学研究科・外科系講座・整形外科学)

テーマ：夢の実現:The Soul & Spirit of Orthopaedics

ホームページ：<http://www.joa2014.jp>

問い合わせ先：運営事務局(joa2014@congre.co.jp)

●第 51 回日本リハビリテーション医学会学術集会

会 期：2014 年 6 月 5 日(木)～7 日(土)

会 場：名古屋国際会議場

会 長：才藤 栄一(藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学 I 講座)

テーマ：実用リハビリテーション医学

－Practical Rehabilitation Medicine－

ホームページ：<http://www.congre.co.jp/jarm51>

問い合わせ先：主催事務局(jarm51@fujita-hu.ac.jp)

●第34回日本骨形態計測学会

会期: 2014年6月12日(木)~14日(土)
会場: さっぽろ芸文館(札幌市)
会長: 網塚 憲生(北海道大学大学院歯学研究科口腔健康科学講座硬組織発生物学教室)
テーマ: 骨形態計測学の発展をめざして
一次世代に架ける橋—
ホームページ: <http://www.procomu.jp/jsbm2014>
問い合わせ先: 運営事務局(jsbm34@procomu.jp)

●6th International Workshop on Advances in the Molecular Pharmacology and Therapeutics of Bone Disease

会期: 2014年6月28日(土)~7月2日(水)
会場: Oxford(UK)
ホームページ: <http://www.oxfordbonepharm.org>
問い合わせ先: events@janet-crompton.com

●第35回日本炎症・再生医学会

(併催:第1回日本骨免疫会議 2014年7月4日(金)~5日(土))

会期: 2014年7月1日(火)~4日(金)
会場: 万国津梁館(沖縄)
会長: 高柳 広(東京大学大学院医学系研究科免疫学)
テーマ: Think Different
ホームページ: <http://www2.convention.co.jp/jsir35>
問い合わせ先: 運営事務局(jsir35@convention.co.jp)

●第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会

会期: 2014年7月17日(木)~18日(金)

会場: 大阪国際会議場
会長: 荒木 信人(大阪府立成人病センター整形外科)
テーマ: New Practical Approach against Sarcoma
ホームページ: <http://joa-tumor47.jp/outline.html>
問い合わせ先: 運営事務局(joa-tumor47@c-linkage.co.jp)

●第11回 Bone Biology Forum

会期: 2014年8月22日(金)~23日(土)
会場: 富士教育研修所
共催: 帝人ファーマ株式会社
ホームページ: <http://www.bone-biology.com>
問い合わせ先: 運営事務局(bbf@ac-square.co.jp)

●ANZBMS Annual Scientific Meeting 2014

会期: 2014年9月7日(日)~10日(水)
会場: Queenstown(New Zealand)
ホームページ: <http://www.anzbmsconference.com>
問い合わせ先: 運営事務局
(vicky@qteventmanagement.co.nz)

●第16回日本骨粗鬆症学会

会期: 2014年10月23日(木)~25日(土)
会場: 京王プラザホテル(新宿)
会長: 加藤 義治(東京女子医科大学整形外科)
テーマ: 骨粗鬆症に対する包括的連携
ホームページ: <http://16jos.jtbcom.co.jp>
問い合わせ先: 運営事務局(16jos@jtbcom.co.jp)

